

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	29	-	事業名	交通安全事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	----	---	-----	--------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	3	交通安全意識を高める気持ちを育む	款	2	総務費
		施策の進め方	2	交通安全啓発の充実	項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	11	交通安全対策費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	交通安全事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市交通安全条例				
事業開始の背景、経緯等		交通事故のない社会の実現を目指した取組を推進し、市民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目的とする。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 交通安全街頭活動及びキャンペーンの実施、並びに高齢者及び自転車利用者等を対象とした交通安全教室の開催等を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識を高め、交通事故のないまちを目指す。					
	事業を構成する事務事業	① 交通安全対策事業	現状維持	④			
	② 交通安全啓発事業	現状維持	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		19,677	18,408	18,458
決算					18,554	17,108	17,581	
人件費(B)	千円	決算		-	3,819	4,752		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		-	20,927	22,333		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 人身事故	件	目標	408	341	328	291	327
			実績	362	345	306	344	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 実際に市内で発生した人身事故の件数(5%の減少を目指す) B C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年6月1日の道路交通法の改正により、交通の危険を生じさせるおそれのある一定の違反行為(危険行為)を反復して行った自転車の運転者に対し、自転車運転者講習制度が始まった。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 人身事故件数が、前年よりも増加した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 交通事故を1件でも減らすには、幼少期からの交通安全教育が大きく影響すると思うが、その効果が表れるには時間を要する。同時に成人や高齢者向けの啓発を継続する必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知できるような啓発方法を模索していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内で、交通事故死ゼロの日が1日でも長く継続することを目標に、継続して啓発活動を行う。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		交通安全事業									
番号	①	事務事業名	交通安全対策事業	款	2	項	1	目	11	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度	終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象 ・交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。 ・市内にある6小学校すべてに、交通指導員を各校2名ずつ配置している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	交通安全教育・指導を通して、児童生徒が自らの身の安全を守る行動ができるよう育成する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		16,284	15,282	15,278	14,922
		決算		15,521	14,117	14,694	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 交通指導員報酬						12,161	千円
② 消耗品費						1,380	千円
③ 交通安全協会愛知支部負担金						684	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
交通指導員人数	人	目標	10	12	12	12	12
		実績	10	12	11	12	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や自転車の安全利用の啓発活動などを行った。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

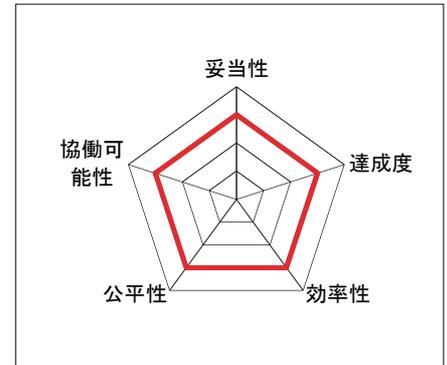
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
交通指導員は、実践的な交通指導を目的として各小学校区に配置しているところだが、最近では、児童の安全確保全般について期待をされていると感じる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
交通指導員が1名欠員しているため、人材の確保に努める。
(何をどのような状態に改善したのか)
欠員していた交通指導員1名については、平成29年6月から補充することができ、交通指導員定員12名で事業を行うことができた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・外部団体の行う研修に積極的に参加し、交通指導員としての知識や技術の向上に努めた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
現在、各小学校区に交通指導員を2人配置しているが、退職した場合の人員の確保に苦慮している。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている指導ポイントを盛り込んだ交通安全教室の内容を検討する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		交通安全事業										
番号	②	事務事業名	交通安全啓発事業		款	2	項	1	目	11	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	・ 市民対象 ・ 交通安全に関する講習会やキャンペーンを実施する。 交通事故被害者の約6割を高齢者が占めており、高齢者に対する啓発がより必要となってきた。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	交通安全意識の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		3,393	3,126	3,180	3,250
		決算		3,033	2,991	2,887	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 消耗品費						2,725	千円
② 交通安全啓発グッズコンクール賞品						68	千円
③ 印刷製本費						23	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
交通安全講習会開催回数	回	目標	21	21	25	25	33
		実績	28	33	32	40	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者対象の交通安全教室の開催 延べ参加者数 71人 ・ 新入学児童及び転入生への交通安全黄帽子・ランドセルカバーの配布 各738組 ・ 交通安全啓発グッズデザインコンクールの実施 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

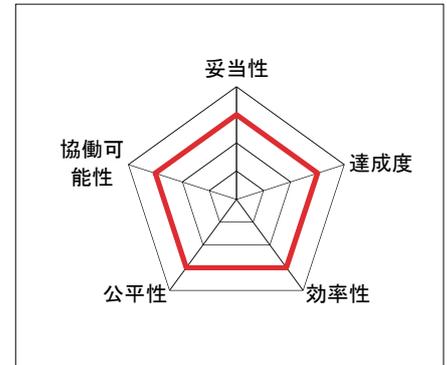
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
交通事故被害者の約6割が高齢者である一方で、高齢者が加害者となる交通事故も社会的に取り上げられることが多くなった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
交通事故の傾向分析資料等を参考にしながら、その時に合わせた内容での啓発活動を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年末に発生した交通死亡事故が、飲酒運転が原因であったことから、その後の交通安全啓発運動の際には、飲酒運転撲滅の啓発を重点的に行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
小中学生を対象とした「交通安全啓発グッズデザインコンクール」を実施し、オリジナルグッズを作成した。また、そのグッズを活用し、啓発活動を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市の行事や市民活動に参加されない方への啓発については、検討が必要だと考えている。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
小中学生を対象とした「交通安全啓発グッズデザインコンクール」は、市独自の取組であり、また、交通安全意識の向上のためには子供のころからの意識付けが重要であることから、引き続き事業を継続して行いたい。